

『青年部活動に参加して』

八潮市商工会青年部 奥村卓士
リサイクル市場

「四百貫！！」「五百貫！！」

突然ですがこの言葉を聞いたことがありますか？この言葉は古物市場の競りの入札の時に使う符丁という言葉です。一般的にはあまり使う事はありません。私も初めて聞いたときはまったく意味がわからずに使いこなすことができませんでした。

こんにちは。八潮市商工会青年部の奥村卓士と申します。

家業はリサイクル業を営んでおり、15年前に事業を立ち上げ、現在は妻と営業しております。

古物市場での仕入れはもちろん、八潮市や近隣地域に住む方からのご依頼があれば出張買取もしております。

私が、青年部に入部したきっかけは、部員である友人から「青年部主催の異業種交流会があるんだけど、奥村君参加してみない？」という一言でした。

「異業種交流会か。人脈も広がるし、商売にも繋がりそうだ」そう思い参加し、交流会が終わるとその友人から「青年部に入ってみない？会議も月1・2回だし、年に1回のまつりがあるだけだからさ」と誘われ、私は直ぐに入部を決意しました。

しかし、いざ入部してみると、会議の回数は週に2回以上・・・お祭りも数回あり、青年部活動ばかりで、すぐには商売に繋がらず「イメージと違ったなあ」と思っていると、当時の部長からこう言われました。

「入部してすぐには商売に繋がらないのは当たり前。青年部活動を通して信頼関係を築く。そこから商売に繋がるんだ」

その時の私は「言っていることは分かるけど、経済団体なんだから仕事に繋がらなければ意味ないよな」と思っていました。

そう思っていた私の青年部活動は・・・行ける時は行く、忙しい時は適当に断っていました。

学生時代、野球に打ち込んでいた私は、普段の青年部活動とは違い、青年部野球には前向きに取り組んでいました。ちょうどその頃は県青連野球大会もあり練習へ頻繁に参加していました。普段は大きな声を出さない私ですが、野球の時は違

います。「ナイスプレー」「ナイスバッティング」と大きな声で仲間を鼓舞します。

「野球やっている時の奥村くんていつもよりイキイキしているね」と言われることもありました。県大会出場を目指し取り組んでいましたが、残念ながら出場は叶いませんでした・・・

ある日の出来事です。仲間の部員から次々に仕事の依頼をもらいました。入部してすぐは全然仕事に繋がらなかったのに、「なぜ急に仕事が来るようになったんだろう」と思っていると、「青年部活動を通して、奥村君に対する信頼が生まれたって事じゃないかな」と部長から言われました。

その理由を考えた私は、自分なりの答えにたどり着きました。それは青年部野球です。練習や試合、懇親会の席など、部員と交流することで仲間意識が芽生え、信頼されるようになったのだと。私の青年部に対する意識が変わった瞬間でした！！

信頼関係を築けば仕事に繋がる。そう思い始めていた時の事です。

突然、現在の部長から「奥村君。来期経営委員会の副委員長だからよろしく！！！」正直悩みました・・・その時の私は、子供が所属している少年野球の監督もしていました。「毎週土日は全部野球・・・青年部は平日の夜が多いけど、土日に開催される市内の祭りにも参加しているし、副委員長を受けたら仕事に影響がでるんじゃないか？」と悩み、部員に相談してみるとこんな言葉が。

「仕事と青年部って一緒でしょ？そう考えれば良いんじゃない？」

その部員は、仕事をしながら、青年部活動にも積極的に参加していました。「忙しいはずなのに凄いよな。どうやって仕事と青年部を両立しているのだろう？」と思っていましたが、仕事と青年部は一緒という言葉聞き、納得した私は副委員長を受けることにしました。

副委員長になると会議の回数も増えましたが、なんとか時間の調整をして副委員長としての役目を務めていました。いえ・・・務めているつもりだったのです・・・副委員長は、想像以上にやることが多く、ストレスを感じることも。それを委員長に相談すると「全部自分でやろうとするから手一杯になるんだよ。委員会メンバーに役を振ることも副委員長としての役目だよ」

私は普段の仕事は全部自分1人でやっていました。全部自分でこなすという事を前提に考えていたのです。

しかし青年部は組織。青年部には、部長がいて、副部長や委員長がいる。それぞれの役割があり、全員が己のためにではなく、全体の為に行動する。組織とはこ

うということなのだと副委員長をやって初めて気が付きました。
そんな私に部長から再度声が掛かりました。「奥村君。野球部のキャプテンもよろしくね!!!」
組織とはなにか？理解し始めていた私は悩むことなく快諾し、副委員長とキャプテンを兼任する青年部活動が始まりました。
キャプテンとして各々に役割を振り、チーム一丸となり、充実した練習ができていました。
ところが・・・充実した練習ができていたのは最初だけでした・・・日を重ねるごとに参加者が1人減り、2人減り・・・4人で練習するなんて日もありました。
「なぜ来なくなっただろう、チーム一丸で野球に打ち込んでいたはずなのに・・・」
そんな時、一人の部員からこんなことを言われました。
「一度の確認だけじゃダメなんじゃないかな？たしかに事前に段取りはできているけど、前日や当日になって急用が入る事もあるかもしれないよ。」
ハッとしました。たしかに事前に確認はしていましたが、その後のフォローはできていませんでした。
それからは部員とのコミュニケーションをさらに図るため、疲れている時も練習後にはみんなと飲みに行く。仕事やプライベートの事など色々な話をしました。すると「また来週！次はあの練習しようよ」とみんなの意識が変わりはじめました。さらには野球経験のない新入部員からも「奥村さん！野球やってみたいですよ！」と非常に嬉しい声も聞くことができました。
一度の確認だけではなく何度も確認をする。そうする事でおのずと関係性ができる。それを継続していけば本当の信頼関係ができる。・・・

「四百貫!!」「五百貫!!」皆さん冒頭のこの言葉を覚えていますか？
四百貫とは6500円。五百貫は8300円。当時は使いこなせなかった言葉。
青年部に入部して5年。日々の青年部活動を通して組織人としての役割や、信頼関係の築き方を学びました。
青年部での経験を活かし、古物市場に出入りする業者とも、積極的にコミュニケーションを図った現在の私は、市場の社長から「セリ人」という職を任されています。
セリ人とは市場に出入りする様々な人たちをまとめ上げ、市場全体を把握することが求められる非常に重要な役割です。

「四百貫！！」「五百貫！！」
当時は慣れない言葉でしたが、今の私は使いこなしています！
ご清聴ありがとうございました。